



プロフェッショナルサービスを採用し 高品質で迅速な自社運用を実現 大規模な機能強化プロジェクトもトラブルなく完了

北陸銀行

業界

FINANCIAL

課題

- 仮想化基盤の安定性と堅牢性の維持
- ビジネスの変化に合わせた運用の迅速化
- 最新仮想技術の導入と定着化

ソリューション

市場やニーズの変化に合わせて、ITインフラの自社運用化・最適化・高度化を図るため、プロフェッショナルサービスを採用。さまざまな課題・懸案を解決しながら、PCIDSS 準拠プロジェクトも成功させた。

導入効果

- 様々な局面での課題を解決して安定した仮想化基盤運用を確立
- ビジネスのニーズに則した最適な運用方法・作業計画を確立
- 大がかりな機能追加もトラブルなく完了

導入環境

- VMware NSX Enterprise
- VMware vCloud Suite Enterprise
 - vSphere Enterprise Plus
 - vRealize Operations Manager Advanced
 - vRealize Log Insight

プロフェッショナルサービス

- NSX 設計支援
- NSX 構築・テスト支援
- NSX 運用ツール活用支援
- 仮想基盤運用方式定義支援
- サーバ仮想化運用高度化支援
- 仮想基盤ヘルスチェック
- テクニカルアカウントマネージャサービス (TAM)

北陸銀行は、明治10年創業の金沢第十二国立銀行を起点として、昭和18年に設立された地方銀行です。北海道での知名度も高く、2004年には北海道銀行と経営統合し、ほくほくフィナンシャルグループを設立しています。同行では、ITを単なる効率化・コスト削減のためのものではなく、顧客満足度向上・経営支援のためのものと捉え、新技術に対しても積極的に取り組んでいます。地方銀行としても早い段階から仮想化技術を取り入れてきた同行は、将来に向けたよりよい基盤構築と安定的な運用のため、「プロフェッショナルサービス」を採用しました。

仮想化基盤の安定した運用と 高度化を支援

北陸銀行は、富山・石川・福井の北陸3県と北海道、三大都市に店舗網を有する地方銀行です。前身の設立は明治10年と古く、国内有数の広域地銀として知られています。現在は北海道銀行をはじめグループ企業12社とともに、ほくほくフィナンシャルグループとして地域経済を支えています。

同行が掲げる経営理念の1つに「進取創造」があります。この理念は、特にシステム戦略において色濃く出ており、経営層を含めて“新しいことにチャレンジしたい”という思いが現れています。

北陸銀行 総合事務部 システム戦略グループ長の富永英司氏は、「ITは、単なる効率化やコスト削減のために使うのではなく、経営に貢献すべきものと捉えています。銀行業とは経済活動を支える社会インフラですから、積極的に新しい技術を取り入れて事業を成長させ、地域に還元する義務があります。その意味で、古い習慣や仕組みからの脱却が必要だと考えています」と述べます。

北陸銀行では、2016年に大規模な基盤更改を行いました。2011年には勘定系システムを共同利用システム (MEJAR) に移行しシステム共同化を進めてきましたが、イントラネットや業務システム等の周辺システムについても、グループ全体でシステムの標準化を図り、コストや労力を最適化したいと考えていたためです。そこで、VMwareの技術を用いて仮想化環境を構築したのです。

しかし富永氏は、それで満足したわけではありません。システムベンダーに統合基盤の構築や運用を委任していたものの、「これが進むべき道なのか、あるべき姿なのか」と自問していました。

ほくほくフィナンシャルグループのIT企画・運用を担当する北銀ソフトウェアで、開発第一部 部長を務める堀洋人氏は、「自身のシステムを他社に委任してしまうことに疑問を感じていました。自

社のニーズを的確に反映させるためには、自らの考えで自在に制御できる仕組みが必要なのではないかと考えました」と振り返ります。

そこで北陸銀行の選んだ施策が、プロフェッショナルサービスの採用でした。このサービスを活用すれば、テクニカルアカウントマネージャ (TAM) を介して、さまざまな問題提起や課題解決を強力にサポートしてくれます。

「企業システムは、安定的に動けばよいだけではなく、ニーズに応じてアップデートしていく必要があるはずです。その点で、中核技術のメーカーと直接対話できるというのは新鮮でした。TAMは、的確で正しい知識を提供してくれます。運用中に発生する疑問も解消でき、急な有事にもすばやく対応してくれるため、安心して使い続けることができます」(堀氏)

計画から実作業まで 機能強化を徹底サポート

新しい統合基盤の運用が始まったのち、北陸銀行にとって大きなプロジェクトがスタートしました。グループ会社のカード事業において、PCIDSSへの準拠が急務と判断されたためです。既存の運用への影響と導入コストを最小限に抑えて、短期間で完了させる必要がありました。

大きな課題の1つが暗号化でした。PCIDSSでは、システムに保管されているカード会員データを適切に保護することが求められており、基本的には



株式会社北陸銀行
総合事務部
システム戦略グループ長
富永 英司氏

「ITが経営を支援するには、品質の高いサービスをスピーディに提供しつつ、継続的に新しい技術を取り入れなければなりません。TAMのサポートによって、迅速な自社運用が可能となり、新しい技術や機能にも積極的に取り組めるようになりました」

株式会社北陸銀行
富永 英司 氏



北銀ソフトウェア株式会社
開発第一部 部長
堀 洋人 氏



北銀ソフトウェア株式会社
開発第一部 サブリーダー
黒川 小百合 氏

カスタマープロフィール

富山市に本拠地を置く地方銀行で、明治10年に創業した金沢第十二国立銀行を起点とし、昭和18年に4行合併によって設立。北陸3県のほか北海道にも強い地盤を築く。2004年には北海道銀行と経営統合し、北銀ソフトウェアほか計13社でほくほくフィナンシャルグループを構成して、幅広い地域で事業を展開している。

データを暗号化することで対応します。サーバーOS標準の暗号化機能を用いることや暗号化専用ツールを別途導入する事が一般的ですが、仮想化環境では利用できない場合や利便性に欠ける場合もあります。

そこで北銀ソフトウェアは、VMwareの暗号化機能を用いる手法を採用しました。ただし、既存のVMware環境をアップグレードする必要がありました。

プロジェクトを率いる開発第一部 サブリーダー黒川小百合氏にとって、TAMが大きな助けになりました。

「バージョンアップによって暗号化機能を利用できるということはわかっていましたが、実際には何が必要なのか、他の手法やツールと比べたときのメリットやデメリットは何か、仮想化環境への影響など、さまざまな懸念事項がありました。TAMは、そうした疑問の解消から細かにサポートしてくれました」(黒川氏)

TAMは、バージョンアップによる既存システムへの影響度を検証し、作業計画を策定、北陸銀行への説明資料の作成を支援するなど、全方位にわたって黒川氏のチームを強力に支援しました。作業中には一部にエラーが発生することもありますが、製品サポート部門と連携して迅速に原因を調査して解決策を提示し、遅滞なく更新を完了することができました。

「安心して実施することができました。しっかり検証を行って計画していたこともあり、暗号化機能を有効にしても、既存環境や運用への影響はほとんどありませんでした。もし我々だけで対応して

いれば、解決までに長時間かかっていたでしょうし、最適化も困難だったと感じています」(黒川氏)

ITで競争力を獲得して 強い銀行を目指す

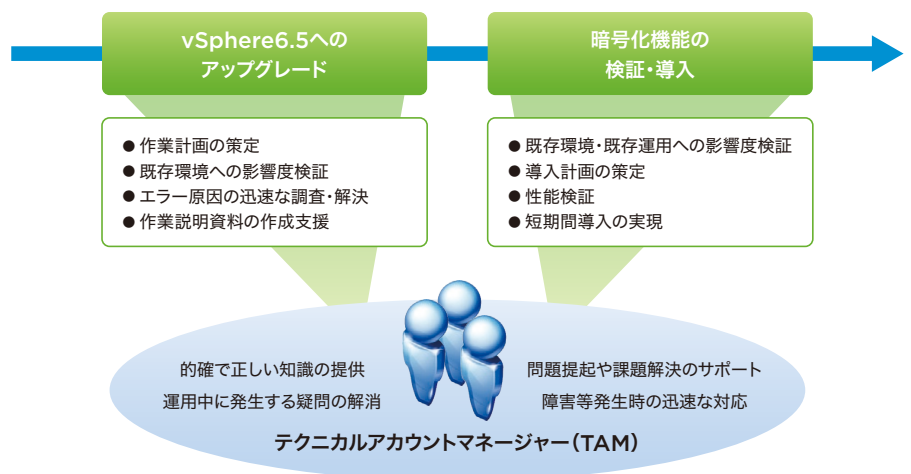
北陸銀行と北銀ソフトウェアは、TAMの活動を高く評価しています。暗号化機能の実装は大がかりなプロジェクトでしたが、TAMによってトラブルなどもしっかり解消することができ、現在もトラブルなく安定的に稼働しています。

同行では、今後さまざまなITを採り入れて、サービスの高品質化を図っていく計画です。すでにインフラが整ったことから、アプリケーション側の計画を早めて、モバイル対応などを推進したいと富永氏は述べています。

また富永氏は、クラウドサービスの利活用を考慮しており、よりスピーディに、便利に、そして安全に活用していくためには、ネットワーク仮想化などの技術が欠かせないと考えています。

「私たちは、強い競争力を身に付けなければなりません。そのためには、最先端のITを積極的に検討・採用し、クラウドやモバイルを上手に活用していく必要があると考えています。その意味で、VMwareを採用したことは、正しかったと考えています」(富永氏)

北陸銀行は、ITのパワーによって新しい銀行業を作ろうとしています。VMwareの技術とプロフェッショナルサービスが、同行の取り組みを力強くサポートし、共に新しい銀行ITの形を作り上げていくことでしよう。



図：暗号化機能導入におけるテクニカルアカウントマネージャー(TAM)の活用